

## 二級河川沼田川水系 河川整備計画懇談会 議事要旨

日 時：令和元年10月28日（月） 10：00～12：00

場 所：広島県東部建設事務所三原支所 南館1階 第一会議室

出席者：（委 員）：8名

（以下○：委員意見）

（事務局）：東部建設事務所三原支所長 他

（以下●：事務局発言）

### 1. 設置要綱（案）について

- ・二級河川沼田川水系河川整備計画懇談会設置要綱（案）について、出席委員全員の賛同により原案のとおり承認された。
- ・施行期日は、令和元年10月28日（月）とする。

### 2. 二級河川沼田川水系河川整備計画（変更素案）について

事務局より「資料-4：二級河川沼田川水系河川整備計画（変更素案）」、「資料-5：二級河川沼田川水系河川整備計画（変更素案）説明資料」について説明し、委員より御意見をいただいた。

（以下、○：委員発言、●：事務局発言）

#### 河床掘削、樹木伐採について

- 菅川について、河床掘削を今後どのくらいの周期で実施されるのか。
- 資料-4, p3-26, 3.2.2, 「(2)河道の維持」に示しているとおおり、堆積した土砂や繁茂した樹木が、治水上支障となる場合は、環境面も配慮しつつ掘削、伐採等必要な対策を講じるということをやっている。広島県は、河川の維持計画にもとづき定期点検調査を行い、一定の堆積が見られ、整備計画で示した治水上問題になるということであれば河床掘削を行う。
- 沼田川本川の本郷橋付近の木が全く切られていない。伐採してほしい。
- 定期点検を行い、治水上問題になる樹木については、適切に管理していく。本郷橋周辺についても、昨年度から5か年で実施する河川激甚災害対策特別緊急事業により、河道掘削の際に支障となる樹木は伐採する。地域の皆様の要望を伺いながら、非出水期、アユの漁期を外し、施工上の工期を踏まえて実施していく。
- 船木地区や小原川のように、竹林を町内会で4回切ったら全く再繁茂しなくなった事例もあるため、町内会に管理を依頼してはどうか。
- 資料-4, p.3-26, 「(3)植生の維持」に示したように、県のアダプト制度等を活用しながら今後の管理を適切に進めていきたい。

○すべての区間で治水と環境を両立させることは困難なので、自然保護は流下能力に余裕がある場所で対応をしていく等が必要と考える。早く整理をして、災害に太刀打ちできるようにしていただきたい。

●河川整備計画では、治水、利水、環境の調和に配慮し、御指摘の点を踏まえながら計画策定を進めていく。

### 高潮、津波の対策について

○高潮、地震による津波への対策はどうか。

●高潮については、残り 100mのみとなっている。津波については、東南海・南海地震規模であれば、ハザードマップで情報提供しているとおおり、現行の高潮対策の施設で対応できる。

### 進捗管理について

○計画対象期間が 30 年と非常に長い（資料-5, p. 14）。現行計画が策定された平成 15 年の後も土砂堆積や昨年度の大災害が発生しているため、計画の進捗管理をしっかりやっていただきたい。災害を受けたものにとっては切実である。

●今回策定するのは、三原市地域から東広島市地域と広範囲に渡る沼田川水系の治水、利水、環境のあり方を踏まえた計画である。県では概ね 5 年を区切りに「ひろしま川づくり計画」というアクションプランを立て、予算、進捗状況をフォローアップしつつ 5 年ごとに改定しながら関係市町と連携して事業を進めている。樹木伐採、土砂撤去については別に定めている維持管理計画にもとづいて対策していく。

○今回策定する河川整備計画（変更）の施行予定はいつか？

●令和 2 年 3 月の施行を目指している。

○県、市、地域の連携の重要性を痛感した。今の工事の進捗状況を教えてほしい。

●破堤箇所における堤防の修復工事、土砂と樹木の緊急撤去工事については完了している。現行整備計画にもとづき茶山涯頭首工の改修計画を進めており、今年度の工事にも着手している。また、今年度の工事では、仏通寺川、梨和川の土砂撤去工事について進めているところである。

### 目標について

○平成 11 年 6 月 29 日洪水、平成 30 年 7 月豪雨を目標としているが（資料-5, p. 15）、昨今の降雨状況、堆積土砂の状況、流域の開発による保水能力の低下等を見ていると、259mm/日を対象にしているのかと不安になる。

●現行計画は平成 11 年 6 月 29 日洪水の被害を踏まえてこれを目標に計画策定を行った。今回は現行計画を踏まえて直近の災害である平成 30 年 7 月豪雨も対象に追加した。さらに大きな洪水に対する対策を検討する必要性も理解できるが、まずは河川激甚災害対策特別緊急事業に基づき 53 億をかけて、堤防満杯で平成 30 年 7 月豪雨を流下させる事業を行っていく。時間と予算が必要となるが、その後、河川整備計画にもとづく事業を引き続き行っていく。

- 目標流量の設定が気になる。想定できないような災害が発生しており、国でも強靱化対策を検討していることもあるため、もう少し前向きな姿勢も必要かと思う。
- 近年ハザードマップで検討している想定最大規模（1000年に1回）の洪水を対象とすると、さらに時間と費用がかかる。平成30年7月豪雨という目標は学識者の意見、社会的影響、他河川とのバランス等を踏まえて決定している。

### ダム管理について

- ダムの放流方法について全国で言われているが、事前放流や情報伝達の方法も踏まえて、ダムの治水対策の検証をしっかりと実施していただきたい。
- 県では平成30年7月豪雨を踏まえた「今後の水害・土砂災害対策のあり方検討会」を（昨年）実施した。棕梨ダム、福富ダムの検証を行っており、一定の効果を確認している。ただ、情報提供は十分ではなかったという意見もあり、改善策の検討を進めている。運用面も検証しながら効果的な対策を行いたい。資料-4, p. 4-1, 「(2)河川情報の提供」の記載事項を引き続き進めていく。

### ソフト対策について

- 住民、市民の情報共有を含めてソフト面の啓発も必要ではないかと思う。関東で車での移動時に亡くなったことを踏まえると、防災情報の見方を理解するなどの各自の対応が必要になる。
- 出前講座等を実施しており、今後も市民の理解を進めていく。
- ハード面のみではなく、ソフト面を並行する必要がある。三原市域では雨量が少なく、東広島市域では雨量が多い傾向であるが、温暖化の進行に伴い雨量が増えており、想定外ということは通用しない。これを住民に知ってもらいたい。避難指示が出ても避難しないため被害が発生しており、豪雨の恐ろしさを三原市の広報をとおして啓発し、住民への周知を進めていく必要がある。
- 計画はまず平成11年6月29日洪水および、平成30年7月豪雨洪水相当に対応していくが、激甚化する災害に備えてソフト対策の充実や強化について、検討をしていく必要があると考えている。
- 国、県、市、町内会、自主防災組織との危機管理体制をしっかりと構築していただきたい。市としても取り組む。
- より強化・充実していきたい。資料-4, p. 4-1, 「(3)地域や関係機関との連携に」にも記述している。
- 市内では118の自主防災組織があるが、自主防災が機能するのか？公民館に10名ほど避難されたが、発信する情報が、自治会単位等もう少しピンポイントで出されないとピンとこない。県と市で連携して情報発信してほしい。
- 今後、よりスムーズな情報提供ができるような取り組みを行っていく。

### 3. 住民アンケート（案）について

事務局より「資料-6：二級河川沼田川水系河川整備計画 住民アンケート（案）」について説明し、委員より御意見をいただいた。

- アンケートでは、計画対象期間を30年としているが、直近で実施していることが分かる方がよい。
- 実施していることが分かる表現に修正する。
- アンケートの集計結果をこうした場で見せてもらえるのか？我々の前に提示されないと一方通行になってしまう。
- アンケート結果は河川整備計画（変更案）に反映し、第2回の検討委員会で提示する。懇談会へは書面をもって報告する予定である。
- このアンケートの活用方法を教えてほしい。
- 重要に思われている事項を集計し、修正素案に反映していくことを考えている。治水、利水、環境を踏まえると治水に重きを置く傾向になると思うが、住民のニーズを知りたい。

以 上